



ドローンによりみやこ町犀川木井馬場地区を臨む。古来、瀬戸内海航路の西の拠点である行橋地区と英彦山を結ぶ街道であったらしい。その祓川沿いの道も今は伊良原ダム工事により左側のまっすぐな車道に変わってしまった。

仏法領 ぶつぽうりょう

第84号

発行：真宗大谷派
念信寺
〒824-0202
福岡県京都郡みやこ
町犀川上高屋761
☎ 0930-42-0329
Fax 0930-42-0502
ホームページ
nenshinji.org



S39、御遠忌
住職小2

懐かしい人々

母は アルバムを開き
昔の写真を見ている

多くは語らないが
記憶をたどりながら 懐かしい顔を

思いだしているのだろうか
懐かしさとは 心の中で

「ぼつ」とあたたかくなる気持で
人を笑顔にできる

不思議な力を持つている
思い出の物や風景も
その一つかもしねれない

良い思い出も
そうでない思い出も

懐かしい心の風景になつていいく
旧友はどうしているのだろうか
叔父さんは元気にしているのだろうか
息子の声を最近きいていないな
時が過ぎれば

懐かしい人に何かにかこつけて
電話をしてみよう
手紙を書いたらもつと喜んでくれる
だろうか
喜ぶ顔を思い浮かべながら
楽しい時間を過ごしてみよう

(写真・文 大迫光浩)

念信寺に残るモノ

今回、前号に続いて、懐かしい人やモノを集しました。お寺には、これはなんだろうといふものがありますので、それを取りあげてみましょう。



一つは「九条関白殿御寄附」の看板が昔からあるものです。今回ネットをひいてみると、意外な事が判明。

滋賀報知新聞（2012年1月25日）によると、滋賀県伊庭町の妙楽寺で九条関白寄附の「淨土三部經」が発見されたと。幕末の公家・九条尚忠が家祖の九条兼実の六百五十回忌に合わせて寄附品として東西両本願寺、末寺2万ヶ寺に配ったもの。研究によると、集まつた淨財は六万兩は下らない金額にのぼつたとみられ、尚忠はこれを王政復古を成し遂げる資金として使つたものと考えられている、のだそうです。さつそく配布されたという三部經を探してみましたが、残念ながら看板だけで念信寺では今のところ見つかっていません。笑



またこれは江戸時代の篤信のお同

行の像だそうですね。木製です。

それと以前、たしか住職が子ども時代にお同行さんの写真が本堂の長押に掲げられていたような記憶があります。

その時代、社会の大きなうねりの中で人々がどう生きたかの奥深い歴史が残っているのがお寺なのだと感じたものです。

像の裏には施主と制作者の名前がある。



今回は思い出に残るお同
行さんたちを悦美・前坊
守に紹介してもらいます。

思い出の方々



緒方綾子さん（犀川本庄）

ナンマンダブ ナンマンダブ
ナンマンダブ ナンマンダブ

玄関の遥か遠くより綾子同行の大さ
な声が聞こえてくる。

お聴聞の常席は御講師の真前でした。

口癖は「同座五百年と言いますね。こ
うして一緒に座らせて貰えるのは、余
程の因縁なのですね」。また「この
私の口からお念佛が出てくださる。あ
と、幸せ者でございます」と、また
お聞かせ下さった自身のお歌、色々
ありました。

【草如来】

よい雨が降つた お陰で草が生えた

草さま草さま草如来さま
あなたのお陰で仕事が出来る

草さま草さま草如来さま
あなたのお陰で日がたてる

【法の身は】

生きてよし 死してまたよし
法の身は 今日一日を生かされてゆく

葉をいただいています。
その他沢山の自作のお歌や尊いお言
葉をいただいています。

雨の日は仏書に親しまれ、また法語
のテープを御念佛とともに飽くことな
く聞いておられたそうです。平成十六
年六月十九日 お淨土へ

廣大院釋尼妙勝 俗名 緒方綾子
寿算九十九歳

一粒の種にあるエネルギーが土や水
や光に会い、芽を出し枝を伸ばし実を
成らせ、他の諸々のいのちの糧とな
る。人の称える一声がいのちの糧とな
りどこまでも拡がり、人々の生き様と
なつてゆく。如より如へ。



平成元年6月
同座五百年
春枝尊
綾子行

本年は祖母春枝の三十三回忌に当た
り、また叔母博子は今年二月が七回忌
に当たりました。前住職耕二の七回忌
は平成二十九年でしたが内輪で勤めま
したので、今回ご親戚の皆様にもあら
ためてお参りいただきました。
6月9日午後3時より念信寺本堂で
ご法事を勤めましたので、ご披露させ
ていただきます。

瑞泉院釋尼深妙 村上春枝
平成元年6月1日 行年95歳33回忌

滋慶院釋尼妙博 村上博子
平成27年2月26日 行年83歳7回忌

威德院 釋乘恵 村上耕二
平成23年11月14日 行年84歳7回忌

法要
瑞泉院釋尼深妙 村上春枝
平成元年6月1日 行年95歳33回忌

滋慶院釋尼妙博 村上博子
平成27年2月26日 行年83歳7回忌

威德院 釋乘恵 村上耕二
平成23年11月14日 行年84歳7回忌

前々坊守春枝のご法事



れ、祖母のもと、ほとんどを念
信寺で過ごさせてもらいました。
父・耕二是戦後の混亂期や高度経済成長
の時代のお寺を担つて、たくましく生き切
った人生でした。与えられた運命に従
順な一生だったと思います。

父・耕二是戦後の混亂期や高度経済成長
の時代のお寺を担つて、たくましく生き切
った人生でした。与えられた運命に従
順な一生だったと思います。



三者三様、与えられた境
遇の違いはあります。そ
のまま念信寺の歴史でし
た。

今は、「『大無量寿經』に「(過去の諸仏は)
皆過ぎたまいにき」とあるように、皆過ぎ
去つてしまつたなあという実感です。

親鸞聖人は、父母の

追善供養のために念佛
を申したことは一度も
ないとおっしゃいます。

一切の生きとし生ける
ものは、生まれ変わり
死に変わりしているう
ちの父母兄弟などか
ら、その深く広いの

ちに目覚めて、与えら
れた限りある自分のい
のちを生きなさい。念佛とは一如眞実の世
界からの呼びかけですよと教えられまし

た。

コロナ以降ご法事も面倒だという風潮が
あります。が、今回のご法事を終えて亡き人
を想い、内側に感じる時間の幅が広がりを
持ち、自分のいのちの物語を受けとること
ができるようになります。今もその感覚が続
いています。よいご縁をい
ただいたと思います。



大切な思い出

終活の中で思い出す人

Y A (北九州市小倉北区)



七十歳を過ぎると、人生も愈々最後の直線コースと思える。私が歩んできた人生で、多くの人に出会い、多くの人のお陰で、此処まで来れた事に感謝している。今、その中で特に思い出される人を紹介したい。

私の小学一年生(刈田町南原小学校)

の担任・M先生である。映画「二十二の瞳」の「おなご先生」の様な方だった。容姿も子供たちへの接し方も、

映画の中の主人公の様な方であり、一年生の小さな子供達にとっては、母親のような先生でもあった。私の結婚式に

出席頂いた時には、大変喜んで頂き、祝辞では、二年前に他界していた父の事をお話し頂き、母と私は感激に涙した事を覚えている。その後、年賀状の交換のみで、お会いする事がなかつた事が悔やまれる。もう一人は、苅田中学時代の同級生のO君である。高校生になつてから、音信不通であったが、十数年前に中学の同級生から、転校した私に、同窓会の案内を頂いた時に、O君の連絡先

を知った。計測機器メーカーの役員で、海外赴任が永く、中国に単身赴任といふ時であった。年に数度会う機会を楽しみとしたが、数年前、体調を崩し、闘病生活の後亡くなつた。男兄弟のない私には、兄弟の様な存在であつただけに残念であった。

今、残念で、後悔してゐる事は、親しい人の途中連絡を途切れさせた事である。

記してみる。
あの道などには風呂があつたな!とか、あそこには古井戸があつたな!といふ不思議なことに鮮明に覚えているもの。

自宅の前の道は、幅が狭く当時は舗装もされていなかつた。ために、雨に季節にはドロンコの悪路に變つてゐた。石垣の下からは清水がチヨロチヨロと流れおり、幅二十センチ位の溝になつてゐた。道路から自宅の敷地に上がるために、その溝を越さねばならなかつた。

超すために平べつたい石が置かれていた。これをガンギ、ガンギと言つていた。「雁木」と書く。

雁木などという古い言葉を思い出した。多分現在はほとんど死語に近く、今の方は雁木という言葉そのものを知らないのではないか。



懐かしき故郷の思い出

阿部正紀 (築上郡吉富町)
まさのり



懐かしきふるさとの思い出の歌、といふ童謡があつたと思う。今回は歌のことではなく、前半の懐かしき故郷の事について書いてみたいと思う。

十九歳の時に故郷を離れてからもう

六十年以上になるのか。



懐かしい人々
十五歳と九十歳の小

母さんはもうほとんど
残っていない。九

十九歳の時に故郷を離れてからもう
六十年以上になるのか。

○正紀氏のお父様、阿部正念師は淨真寺住職として、お母様静子様は坊守として、同行さんたちの集うお寺を拠点にして本庄地区の仏法興隆を支えて下さいました。

○この度、蓮如上人の御絵像を修復しました。裏書きを見ると、明治15年に本山東本願寺より淨真寺に下附されています。



福岡と北海道の共通点は、今まさに人口の患者数の多さがあるかと思います。ワクチン接種が少しづつ始まつてますが、まだどう転ぶか分かつたものではありませんから、気をつけて日々を過ごせたらと思いま



お参りの日々

村上 宣 (念信寺若院)
とおる

6月に入り、福岡は梅雨に入るかと思いますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

私は先月、5月2日に北海道札幌に渡り、6日より「教願寺」というお寺で働かせていただいています。土地勘がなく、気候も大きく違い、戸惑いも不安も多くあります。



私は先月、5月2日に北海道札幌に渡り、6日より「教願寺」というお寺で働かせていただいています。土地勘がなく、気候も大きく違い、戸惑いも不安も多くあります。

私は先月、5月2日に北海道札幌に渡り、6日より「教願寺」というお寺で働かせていただいています。土地勘がなく、気候も大きく違い、戸惑いも不安も多くあります。

私は先月、5月2日に北海道札幌に渡り、6日より「教願寺」というお寺で働かせていただいています。土地勘がなく、気候も大きく違い、戸惑いも不安も多くあります。

私は先月、5月2日に北海道札幌に渡り、6日より「教願寺」というお寺で働かせていただいています。土地勘がなく、気候も大きく違い、戸惑いも不安もなくあります。

皆作・永代経法要ご案内



今年は例年より20日程早い梅雨入りでした。皆さまいかがお過ごしですか?
さて、皆作法要を左記のように勤めます。今回も距離をとつて座れるように、地区ごとに振り分けしておりますので、できれば表の左下の日にお参りくださるようにお願い致します。当日のご都合が悪い場合はいずれの日でも構いません。
※マスクの着用をお願いします。
お茶は各自ご持参ください。

合掌

記

一、日時 六月二十六日（土）、二十七日（日）の二日間

一、講師 武井 弥弘 先生

九州教務所長



期日	法座	昼席	地区ごとのお参り予定お願い
6月26日（土）	午後1時30分	上本庄・鎧畑・上高屋・下高屋・他地区※	
27日（日）	午後1時30分	伊良原・横瀬・上木井・下木井・犬丸・内垣・下本庄・松坂・他地区※	

※他地区とは、豊津・築上・行橋・苅田・田川・北九州等です。

コロナ対策として

- マスクの着用をお願いします。●お茶は各自ご持参ください。
- 法座は2日間午後のみです。
- 出来れば地区指定の日にお参りください。
- 本堂の椅子は余裕をもって配置し換気に努めます。
- 体調の不安がある場合は、「遠慮ください」。



春のお彼岸法要

日時 2021年4月17、18日

講師 藤井義英先生（広島県西教寺住職）

コロナウイルス予防の為、午後のみ、地区割で行いました。

法座予定	●秋彼岸法要
十月二（土）・三（日）日	十一月二十一～二十四日
瓜生 崇 師（滋賀・東近江市）	未定

お寺の催し・活動

それをのぞみます。

協議をしま

5月2日修行に旅立ちました。

佛花と本堂掃除は住職の仕事になります。

納骨堂役員会議は去年から何回やったでしょう

6月26日朝、総会を開いて今後の協議をしま

※コロナ下、また遠方の門徒さんも高齢化。関東・関西方面の門徒さんも九州のお寺まで来られるのも難しくなりつつあります。

今年は春の彼岸法要が4月にズレ込んだせいか、皆作法要との期間が短くなり、何かと慌ただしい毎日です。近隣の方、遠方の方それぞれ皆さん方は如何でしょうか？

夏に向かつて植物も動物も一気に動きが活発になります。田植えが終了したばかりの水田の稻も、野の草もすくすくと伸びています。虫も蛇もカエルも、そして上高屋に住んで遭遇するようになった鹿もアフイグマもアナグマも猪も。彼らも生きるために必死です。まだ、猿には出会っていませんが、もし猿に会うようなことがあったら、今の私のままで到底太刀打ち出

ゆうか？

今年は春の彼岸法要が4月にズレ込んだせいか、皆作法要との期間が短くなり、何かと慌ただしい毎日です。近隣の方、遠方の方それぞれ皆さん方は如何でしょうか？

夏に向かつて植物も動物も一気に動きが活発になります。田植えが終了したばかりの水田の稻も、野の草もすくすくと伸びています。虫も蛇もカエルも、そして上高屋に住んで遭遇するようになった鹿もアフイグマもアナグマも猪も。彼らも生きるために必死です。まだ、猿には出会っていませんが、もし猿に会うようなことがあたら、今の私のままで到底太刀打ち出

ゆうか？

今年は春の彼岸法要が4月にズレ込んだせいか、皆作法要との期間が短くなり、何かと慌ただしい毎日です。近隣の方、遠方の方それぞれ皆さん方は如何でしょうか？

夏に向かつて植物も動物も一気に動きが活発になります。田植えが終了したばかりの水田の稻も、野の草もすくすくと伸びています。虫も蛇もカエルも、そして上高屋に住んで遭遇するようになった鹿もアフイグマもアナグマも猪も。彼らも生きるために必死です。まだ、猿には出会っていませんが、もし猿に会うようなことがあたら、今の私のままで到底太刀打ち出

ゆうか？

今年は春の彼岸法要が4月にズレ込んだせいか、皆作法要との期間が短くなり、何かと慌ただしい毎日です。近隣の方、遠方の方それぞれ皆さん方は如何でしょうか？

夏に向かつて植物も動物も一気に動きが活発になります。田植えが終了したばかりの水田の稻も、野の草もすくすくと伸びています。虫も蛇もカエルも、そして上高屋に住んで遭遇するようになった鹿もアフイグマもアナグマも猪も。彼らも生きるために必死です。まだ、猿には出会っていませんが、もし猿に会うようなことがあたら、今の私のままで到底太刀打ち出

